

平成29年8月10日(金)

老球の細道348号

幻の身長制

会津バスケットボール協会 室井 富仁

先月エジプトのカイロで行われた男子U-19のワールドカップで日本は10位という史上最高の成績をあげた。優勝したカナダ、準優勝のイタリアとも互角のゲーム内容で、あわよくば、あわよくなってしまうのではないだろうかという好ゲームが多かった。平均身長は参加チーム最低だったのだが、選手選抜、攻防の戦術、1:1のスキルアップなどで身長差を難なくカバーしていた。さすがトステイン・ロイブルH・Cである。ちなみに、女子もイタリアで行われたが第4位に入る快挙を成し遂げた。

1936年第12回ベルリン五輪でバスケットボールが初めて五輪種目に採用された。栄えある第一回のバスケットボール五輪に、なんと日本チームが参加している。大会前の五輪会議で日本代表の早稲田大学生李想白選手が次回の東京五輪で「180cm以上の選手の出場を認めない」という身長制導入の意見を出した。提案理由は「レスリング、ボクシングなどの他競技に体重別クラスがある。また、身長制クラスを新設することによって純粋に技術と能力を競い合わせる機会を作る必要がある。身長の高さが過度に競技に影響するのを防ぐことによって世界のバスケットボール界の進歩を図る」ということであった。

当時 この日本側の提案に対してFIFA(国際バスケット連盟)の事務総長ウイリアム・ジョーンズは賛成の立場から5つの提案を示した。

- 1・センタージャンプをなくす
- 2・選手の身長を1クラス制(規定以下)か2クラス制(規定以下と無制限)にする
- 3・ゴールを上げる
- 4・フリースローレーンを広げる
- 5・ジャンプによるボールをタップする回数を制限する

最終的には、190cmを境にした2クラス制に決定した。1940年に決定していた東京五輪大会から採用される予定だったが、残念ながら第2次世界大戦で東京大会が中止。その後戦争が終結し、1948年第14回のロンドン大会が開催されたが、身長制限(190cm以下)のクラスには参加国がなかった。そのため1952年第15回のヘルシンキ大会では身長制の廃止が決定されてしまった。第2次世界大戦で2回の五輪が中止になったときに、身長制はいつの間にか闇に葬られてしまったのである。

その後も何度かアジア諸国が身長による不平等の対策として下記のような提案がなされたが、いまだに解決されない永遠の課題となっている。

- 1・身長2階級制
- 2・ゴールの高さを60cm高くする
- 3・ゴールを中心として半径何mかのラインを引く、リバウンドを獲得した選手は、1回ボールをそのラインの外側に出してからでないとシュートができない。
- 4・上記3と同じラインを引く、その線外よりのゴールは3点、線内は2点とする(現在の3ポイントルールとして結実)。

ビックマンの身体能力が向上する昨今、ちびっ子軍団は身長差を克服するために戦術、戦略の工夫、スキルアップ、体力の向上などに、さらに知恵を絞らなければならない。